

障がい福祉に関するアンケート調査結果

障害福祉課

1 調査の目的

県の障がい者福祉施策等について定める「岐阜県障がい者総合支援プラン（仮称）」（平成 27～29 年度）の策定にあたり、皆さんの意識やお考えをお伺いし、計画策定の参考とさせていただくとともに、今後の障がい福祉行政推進の基礎資料とするため、ご意見・ご意向などをお尋ねしました。

2 調査対象など

調査対象：県政モニター 573 人（うちインターネットモニター 337 人）

調査方法：郵送及びインターネット

調査期間：平成 25 年 7 月中旬～8 月上旬

回収結果：515 人（回収率：88.9%）

その他：構成比はパーセントで表し、小数点第 2 位以下を四捨五入して算出しています。そのため、合計が 100 パーセントにならない場合があります。

3 結果概要

○ 障がいを理由とした差別の解消について

- ・ 障がいを理由とした差別や偏見があるかという問いに対して、「あると思う」「少しはあると思う」を選んだ人は全体の 78%
- ・ 障害者権利条約を「知らない」と回答した人は全体の 75.7%
- ・ 障害者差別解消法を「知らない」と回答した人は全体の 79.2%
- ・ 共に生活するための環境づくりを進めるための配慮や工夫について、全体の 88.9%が「配慮や工夫を行う」と回答。また、「経済的な負担があっても配慮や工夫を行う」と回答したのは全体の 65.9%

○ 県が力を入れる必要がある障がい福祉施策について

- ・ 県が力を入れるべき施策については、多い順に「福祉サービスの充実」「障がいのある人が働ける場の拡大」「周囲の人の障がいに対する理解促進」「道路・交通・建物のバリアフリー化」となっている。

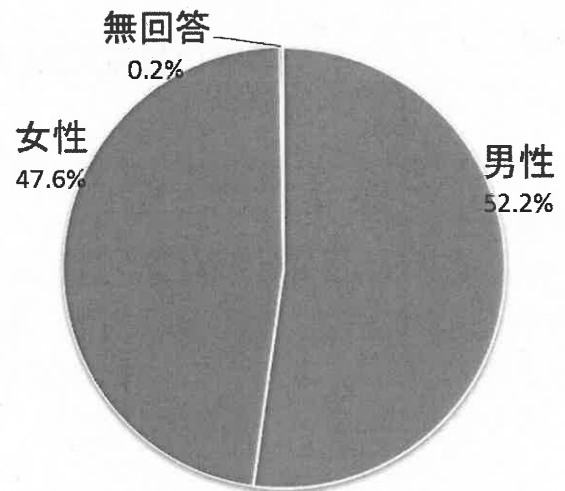
○ 障がい福祉に関するご意見、ご要望について（自由記述）

- ・ 障がいを理由とした差別の解消や心のバリアフリーの推進の必要性についての意見が多く、共に生活するための配慮や工夫についても多くなっている。

4 回答者の属性

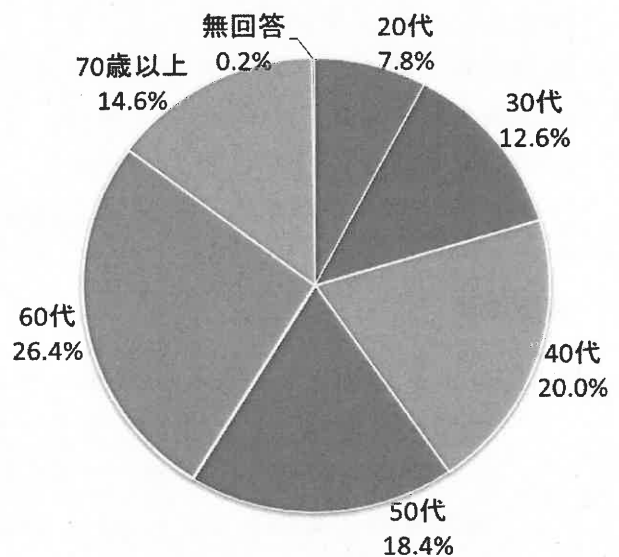
性別

区分	人数(人)	割合(%)
男性	269	52.2%
女性	245	47.6%
無回答	1	0.2%
計	515	100.0%



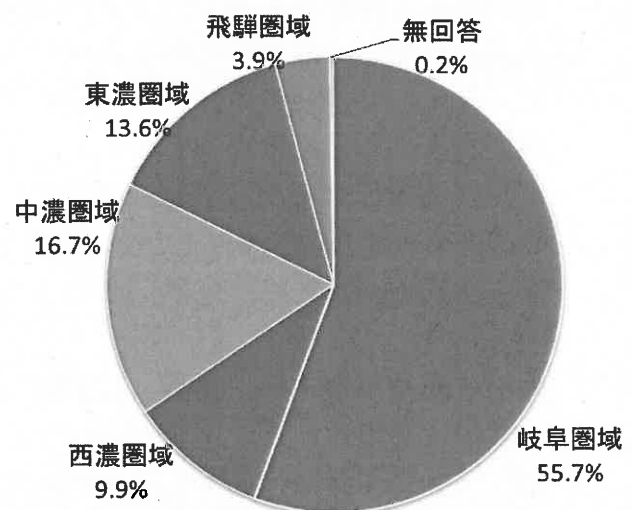
年齢

区分	人数(人)	割合(%)
20代	40	7.8%
30代	65	12.6%
40代	103	20.0%
50代	95	18.4%
60代	136	26.4%
70歳以上	75	14.6%
無回答	1	0.2%
計	515	100.0%



居住圏域

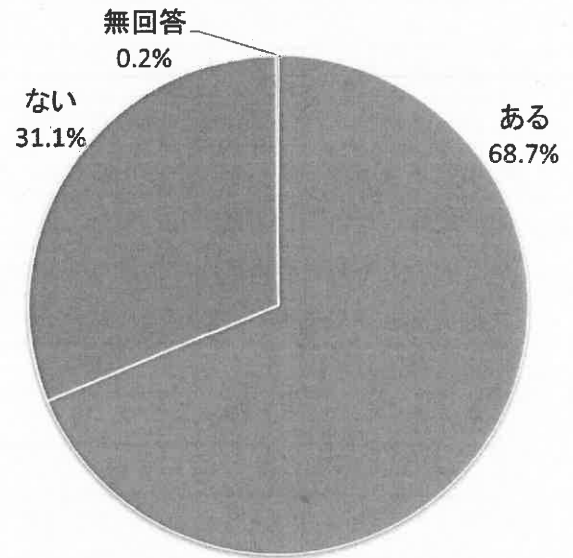
区分	人数(人)	割合(%)
岐阜圏域	287	55.7%
西濃圏域	51	10.0%
中濃圏域	86	16.7%
東濃圏域	70	13.6%
飛騨圏域	20	3.9%
無回答	1	0.2%
計	515	100.1%



5 調査結果

問1 あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。

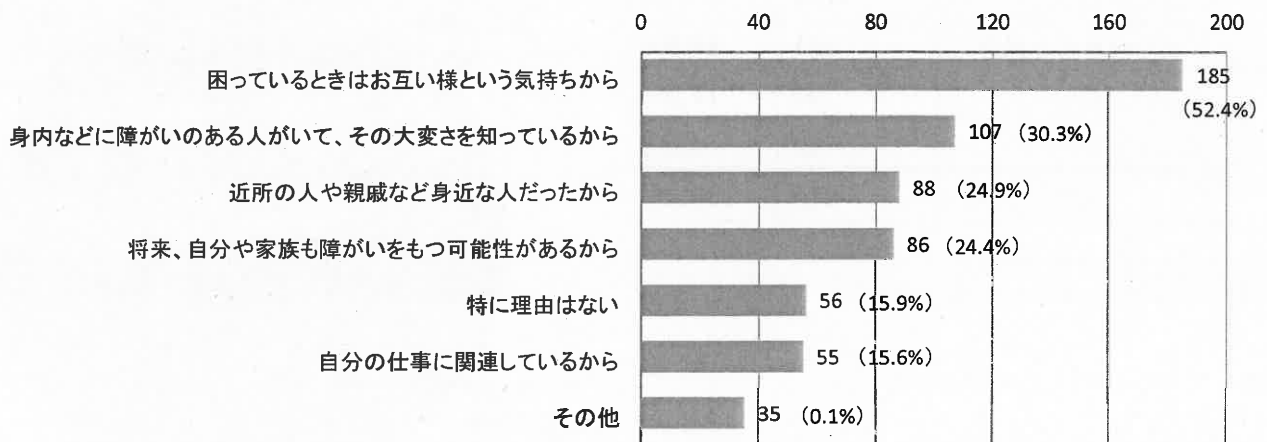
区分	人数(人)	割合(%)
ある	354	68.7%
ない	160	31.1%
無回答	1	0.2%
計	515	100.0%



問2 (問1で「ある」と答えた方)

あなたが、障がいのある人との関わりをもったきっかけは何でしょうか。次の中からあてはまるものすべてあげてください。(複数回答/回答者353人)

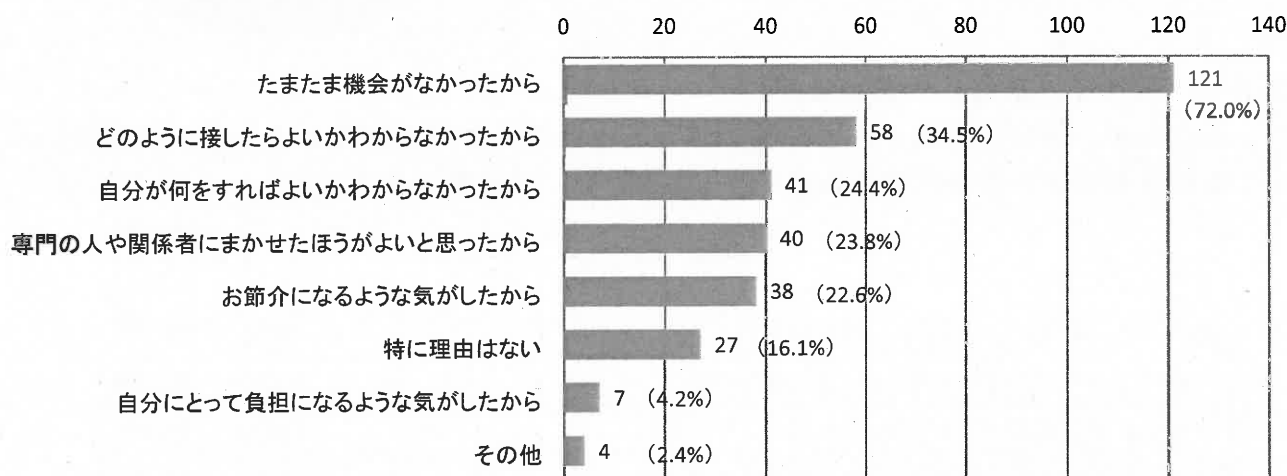
区分	人数(人)	割合(%)
身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから	107	30.3%
近所の人や親戚など身近な人だったから	88	24.9%
困っているときはお互い様という気持ちから	185	52.4%
自分の仕事に関連しているから	55	15.6%
将来、自分や家族も障がいをもつ可能性があるから	86	24.4%
特に理由はない	56	15.9%
その他	35	0.10%
計	612	



問3 (問1で2と答えた方)

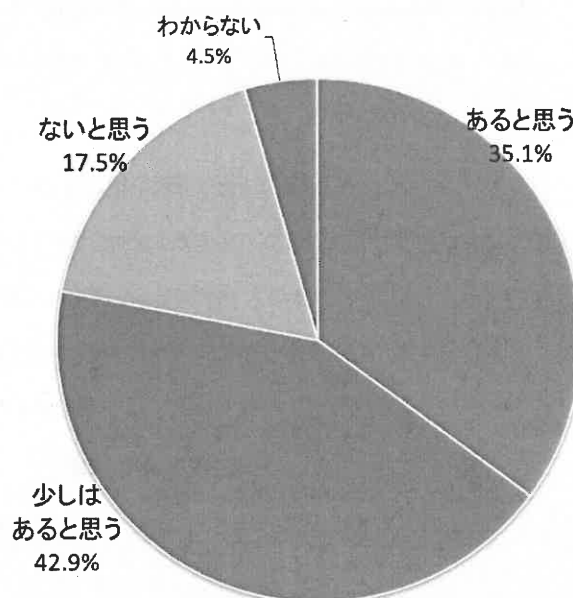
あなたが、障がいのある人との関わりをもたなかったのはどうしてでしょうか。次の中からあてはまるものすべてあげてください。(複数回答/回答者168人)

区 分	人数(人)	割合(%)
たまたま機会がなかったから	121	72.0%
自分が何をすればよいかわからなかったから	41	24.4%
どのように接したらよいかわからなかったから	58	34.5%
お節介になるような気がしたから	38	22.6%
専門の人や関係者にまかせたほうがよいと思ったから	40	23.8%
自分にとって負担になるような気がしたから	7	4.16%
特に理由はない	27	16.1%
その他	4	2.38%
計	336	



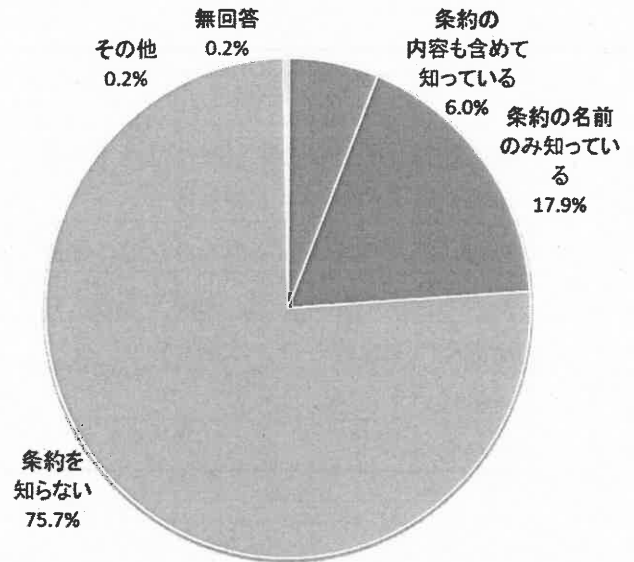
問4 あなたは、障がいがある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。次の中から1つあげてください。

区 分	人数(人)	割合(%)
あると思う	181	35.1%
少しはあると思う	221	42.9%
ないと思う	90	17.5%
わからない	23	4.5%
計	515	100.0%



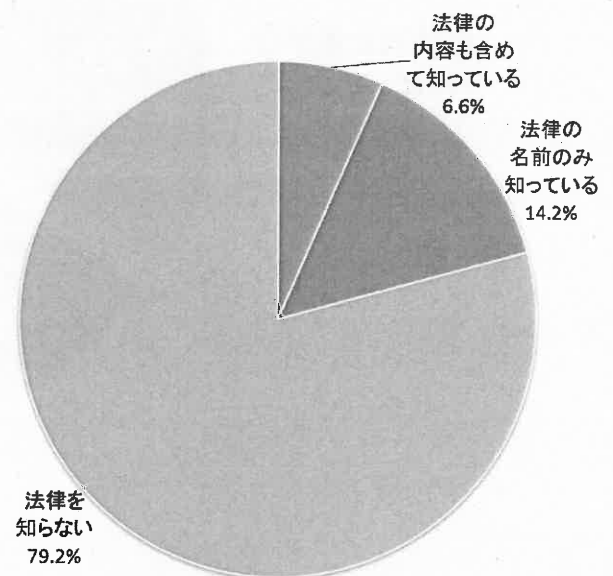
問5 国では、平成26年1月に「障害者の権利に関する条約」を締結しました。あなたはこの条約のことをご存じですか。次の中から1つあげてください。

区 分	人数(人)	割合(%)
条約の内容も含めて知っている	31	6.0%
条約の名前のみ知っている	92	17.9%
条約を知らない	390	75.7%
その他	1	0.2%
無回答	1	0.2%
計	515	100.0%



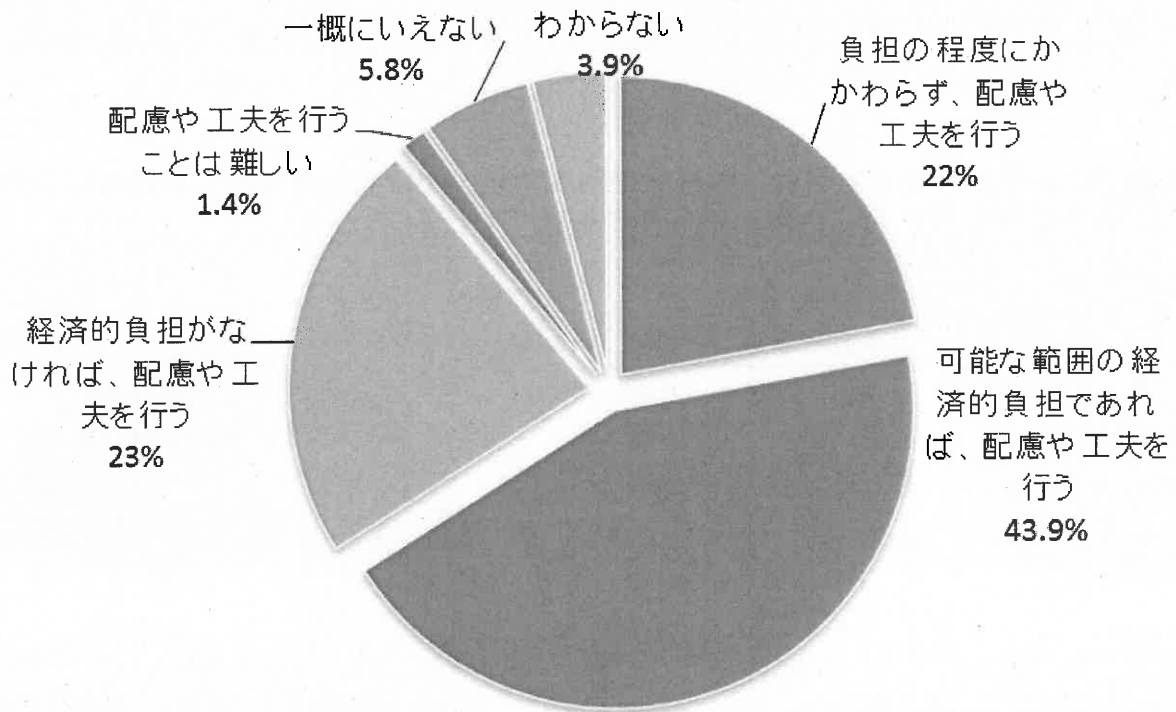
問6 国では、平成25年6月に「障害者差別解消法」が成立しました。あなたはこの法律のことをご存じですか。次の中から1つあげてください。

区 分	人数(人)	割合(%)
法律の内容も含めて知っている	34	6.6%
法律の名前のみ知っている	73	14.2%
法律を知らない	408	79.2%
その他	0	0%
無回答	0	0%
計	459	100.0%



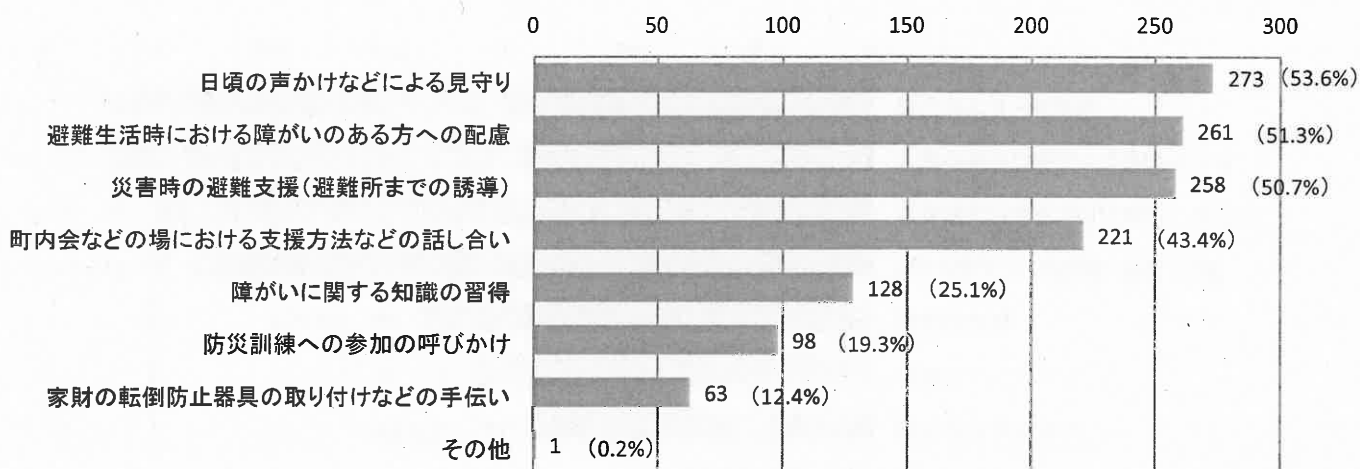
問7 障がいのある人もない人も、共に生活するための環境づくりを進めるために、配慮や工夫を求められた場合、あなたはどうしますか。次の中から1つあげてください。

区 分	人数(人)	割合(%)
個々が経済的負担を負わなければならなかったとしても、その負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行う	114	22.1%
可能な範囲の経済的負担であれば、配慮や工夫を行う	226	43.9%
経済的負担がなければ、配慮や工夫を行う	118	22.9%
配慮や工夫を行うことは難しい	7	1.4%
一概にいけない	30	5.8%
わからない	20	3.9%
計	515	100.0%



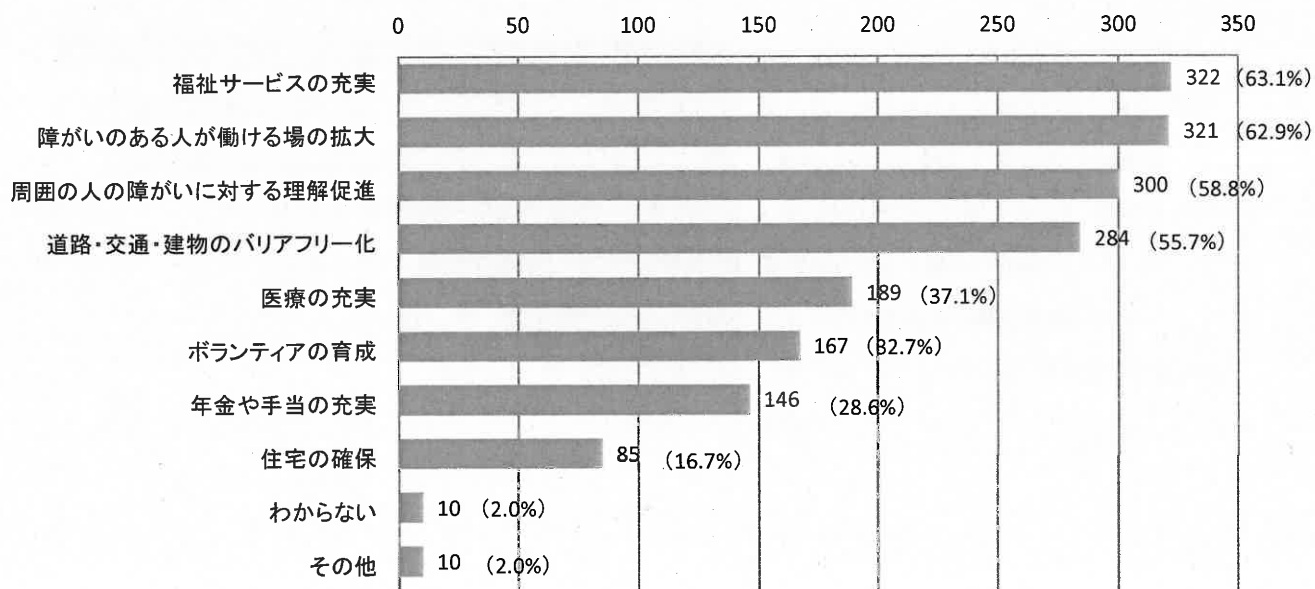
問8 あなたは、災害発生時に（備えも含めて）障がいのある人のためにどのような支援ができると思いますか。次の中からあてはまるもの3つまであげてください。
（複数回答／回答者509人）

区 分	人数 (人)	割合(%)
日頃の声かけなどによる見守り	273	53.6%
町内会などの場における支援方法などの話し合い	221	43.4%
防災訓練への参加の呼びかけ	98	19.3%
家財の転倒防止器具の取り付けなどの手伝い	63	12.4%
災害時の避難支援（避難所までの誘導）	258	50.7%
避難生活時における障がいのある方への配慮	261	51.3%
障がいに関する知識の習得	128	25.1%
その他	1	0.2%
計	1,303	



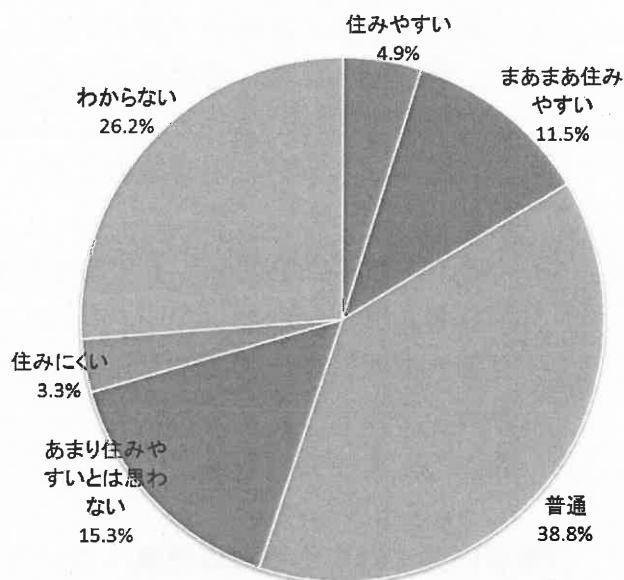
問9 障がいのある人に関する行政の施策のうち、あなたがもっと力を入れる必要があると思うものを次の中からすべてあげてください。（複数回答／回答者510人）

区 分	人数(人)	割合(%)
福祉サービスの充実	322	63.1%
医療の充実	189	37.1%
年金や手当の充実	146	28.6%
住宅の確保	85	16.7%
道路・交通・建物のバリアフリー化	284	55.7%
障がいのある人が働ける場の拡大	321	62.9%
周囲の人の障がいに対する理解促進	300	58.8%
ボランティアの育成	167	32.7%
わからない	10	2.0%
その他	10	2.0%
計	1,834	



問 10 あなたは、岐阜県は障がいのある人にとって住みやすい県だと思いますか。

区 分	人数(人)	割合(%)
住みやすい	25	4.9%
まあまあ住みやすい	59	11.5%
普通	200	38.8%
あまり住みやすいとは思わない	79	15.3%
住みにくい	17	3.3%
わからない	135	26.2%
計	515	100.0%



問 11 障がい福祉に関するご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。(主な意見)

○障がいを利用とした差別の解消や心のバリアフリーの推進について

- ・ 「障がい者も健常者も人権は平等」意識の更なる啓蒙を実施するべき。
- ・ 障害者の権利に関する条約と障害者差別解消法について、全く知らなかったことは、私の障がいをもつ方々への無関心の表れだと思う。反省したい。
- ・ ハード面だけでなく、心のバリアフリーを心がける事が大切。
- ・ 環境づくりを進め、配慮や工夫をしても点字ブロック上に駐輪したり、障がい者用スペースに健常者が堂々と駐車していたりでは意味がない。障がいのある人への理解を深め、もっと思いやりのある行動がとれる岐阜県にしていきたい。
- ・ 子供たちは障がいがある子を助け、上手くつきあっている。大人は色眼鏡で見ている気がする。大人として恥ずかしい気がする。
- ・ 「障がい」も目に見える「障がい」と見た目にはわかりづらい「障がい」がある事をもっと理解していただけるようになるとよい。
- ・ 障がいとひとくくりにされるとわかりづらい。普通に生活ができて、自分で仕事できて自立できる場合もあり、人とまったく接することができなくて、家庭の中だけでの生活をする人もいる。
- ・ 障がいのある人に必要なことや困っていることがわからない。障がいのある人の政策に関与できるほど理解できていないことと、身近でない。私と同じような県民の方も多いのではないかな。

○共に生活するための環境づくりを進めるために、配慮や工夫について

- ・ 障がい者自身の生の声を大切にすることが第一で健常者の一方的な配慮は問題がある。
- ・ 常に、子供・高齢者・障がい者などの社会的弱者の目線で行政が行われたいといけな
い。明日はわが身。そのときになって声高に叫んでも自業自得となってしまう。健常者
の理解が大切。
- ・ してあげるという上目線のスタンスではなく、共に生きるために何ができるのかを考
えたい。
- ・ 障がい者への配慮をしようとするならば「もし自分がその立場ならどうして欲しいか」
から考えなければならない。
- ・ 個人情報保護法等により近隣でどんな人がいるか全くわからない。例えば、災害時に
避難の支援をしたくても、どうにもすることができない。「本音」と「たてまえ」が食い
違ってしまうている。

○障がい児に対する教育の充実について

- ・ 教育現場での指導者（先生）の理解や知識を持っていただくような指導や教育の充実
が必要。
- ・ 障がいのある子どもの進学について、あまりにも選択肢のない現状に驚いた。障がい
のある子どもが全て養護学校へ行くとは限らない。一般高校に少しでも特別支援学級が
あるとよい。

○県が行うべき支援について

- ・ 障がいのある人に対する支援だけでなく、その家族を支えられるような街づくりを期
待する。
- ・ 障がいのある人が働ける場を増やしてほしい。障がいのある人の家族会を開催してほ
しい。障がいがある人同士がふれあう場を設けてほしい。就学前の発達遅れの判断を
なるべく早くしてほしい。
- ・ 腫れ物に触るような空気を変えるように、障がいのある方も積極的に外へ出て明るく
振舞ってもらえるようなイベントなどを開催してもらいたい。